

応援する姿と素敵な笑顔

～小さい力でも積み重なれば大きな力になる～



校長 小林 正樹

木々の緑も日一日と深くなり、気温の高い日や蒸し暑く感じる日も多くなってきました。季節が確実に夏に向かっていているのを感じます。1学期の折り返しを迎えますが、生徒一人ひとりが生活のリズムを確立し、授業や部活動に励み、大谷口中学校全体が活気づいています。そのような中、6月3日からはさいたま市中学校総合体育大会が始まりますが、地域・保護者の皆様、様々な場面で生徒のすばらしい活躍と成長を期待してください。

さて、5月17日(水)に全学年で開催した「第49回体育祭」は、3年生が最上級生としての素晴らしい姿を後輩たちに示し、どの学年の生徒も自分のできることに全力で取り組み、全力で応援する姿と素敵な笑顔があふれたすばらしい体育祭となりました。

ここで、開会式で高らかに宣言された生徒代表の、3年生の稲垣くんと中西さんの選手宣誓を紹介します。

「宣誓、我々選手一同は「水滴石穿(すいてきせきせん)」のスローガンのもと、仲間と協力し準備や練習に励んできました。私たち3年生にとって中学校で初めての制限のない体育祭です。大きな声を出して応援できる喜びと、たくさんの地域や保護者の方々に見守られて競技できる幸せと、体育祭を作り上げてくださった先生方へ感謝の気持ちでいっぱいです。その思いを、今回のスローガンのように大谷口中学校692人の生徒一人ひとりがクラスや学年で力を集結させるだけでなく、大谷口中学校がひとつとなり、最高の体育祭を作り上げていくことを誓います。」と立派な態度で私の目を見て宣誓してくれました。また、閉会式の生徒会長安田さんの講評の一部を紹介します。地域や保護者、教職員に対して感謝を述べた後、「1年生の皆さんは元気いっぱいな応援の声と順位関係なくお互いに声をかけ合う姿からクラスの仲が深まっているのを感じました。2年生の皆さんは応援する姿です。人は頑張れと言われたら頑張れるし、あと少しだよと声をかけてもらえれば気合が高まります。来年も悔いのない体育祭になるよう願っています。3年生の皆さんは1年生の時は感染症拡大防止のため中止となり、2年生の時は多くの制限がありました。今回は制限なく実施できました。競技や応援も今まで以上に気合が入り最高学年らしい姿を見取ることができました。これは、とても素晴らしいことと思います。」会長のそれぞれの学年の方向に体を向け話しかけている態度に感銘しました。すべての学年で応援する姿と素敵な笑顔からたくさんの感動をもらいました。ありがとう。仲間と得られる感動の積み重ねの中から、自分の頑張りや仲間の頑張りや認められていくことで、生徒一人ひとりの中学校生活の積み重ねが豊かになると確信できたそんな体育祭でした。3年生の素晴らしい姿を2年生、1年生もしっかりと記憶しその伝統を受け継ぎ、これからも大谷口中学校をたくましく築いていってくださることを強く期待します。

私は、学校行事等を通して、自己有用感を伴う自己肯定感を大切にして、自分をどんどん高めていってほしいと切に願っています。自己有用感とは、「他人の役に立った」「他人に喜んでもらえた」など他者との関係なしでは生まれない自己に対する肯定的な評価となるものです。子どもたちは様々な場面で「自分が人の役に立った」、「誰かを笑顔にできた」と実感することが肝要です。自己肯定感とは、自分のことを「価値ある存在だ」「かけがいのない存在だ」と思う気持ちであり、様々なことに挑戦する意欲や困難に立ち向かう心などの基盤となるものです。子どもたちは、「大切にされている」「認められている」という実感をもつことや、「できた」「自分もやればできる」という自信をもつことで自己肯定感を高めていきます。そのためには、我々教師、親など、大人たちの関わりがとても大切になります。大人たちが子どもたちのよさを認め、ほめたり、励ましたり、一緒に悩んだり、子どもたちの心に寄り添っていくことが重要です。

最後に、6月はさいたま市内全ての学校が「いじめ撲滅強化月間」として、いじめのない学校づくりを目指して重点的に取り組みます。本校でも、放送による校長講話や生徒会、学級での話し合いを予定しています。今後も学校、家庭、地域の連携のもとで、大切な子どもたちを見守ってまいりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。